

久米島町 兼城自治会

集落
部門

十五夜に舞う獅子舞でふるさとづくり (令和元年度認定)



「兼城獅子舞」は、約200年の歴史を誇る伝統芸能であり、集落の災厄や疫病を追い払い、五穀豊穡を願う行事として根強く継承されている。ドラや太鼓を打ち鳴らし、面をかぶったハチャブローと呼ばれる踊り手に先導される奉納舞は、次世代へ継承していくために島内外の芸能まつりにも参加し活動を続けている。

琉球王朝時代に唐や南蛮の国々からの来客船の中継地として開けた歴史を持つ兼城集落には、「しゅんどう」や「白瀬走川節」という独特の伝統舞踊があり、兼城伝統芸能保存会のもと誇り高い伝統芸能として受け継がれている。「しゅんどう」は御冠船踊りとしてよく知られる伝統芸能である。「白瀬走川節」は久米島を代表する伝統的な女踊りの方を備えた古典舞踊で、尚泰王時代に冊封使の歓待に出演したと伝えられている。

また、農作業にまつわる御願行事としては、「アブシバレー」や「クシユクイ」などがある。「アブシバレー」は、作物を食い荒らす虫を追い払って豊作を祈願する行事であり、兼城ではバナナの葉に虫を包んだ船を作り海へ流す。「クシユクイ」は製糖期が終わる頃、公民館で豚肉料理などのご馳走が振る舞われ、農作業を労い豊作を祈願する。

これらの行事を兼城自治会が中心となり、行事を執り行うことで地域住民の団結力の醸成に繋がっている。

このように、多面的機能の保全や伝統文化の継承等を通じた「ふるさとづくり」に取り組んでいることから、「沖縄、ふるさと百選」集落部門に認定された。



獅子とハチャブロー



しゅんどう



白瀬走川節



アブシバレー



集落の清掃活動



兼城コバテイシ(久米島町天然記念物)